

御池通沿道のマップづくりワークショップ・ニュース (N0.4)

平成17年3月7日発行

発行：京都市都市計画局都市企画部都市づくり推進課

問合せ：都市づくり推進課 (TEL 075-222-3503)

平成17年2月25日(金)に開催した、第4回「御池通沿道のマップづくりワークショップ」では、これまでのワークショップなどで「何のためにマップをつくるの?」というご意見があったので、もう一度、目的や対象とする範囲などを丁寧に話し合うことから始めました。

今後の作業は、3つの区域(鴨川～烏丸、烏丸～堀川、堀川～千本)に分かれて、各区域の特徴を生かしたマップづくりをしていこうということも確認され、各グループでどんなものをのせるか、どうやって情報を集めるか…などを話し合いました。

何のためにマップをつくるの?

▼最初に、主催者から取組のねらいをお話しました。

- ・ 出発点は、「御池沿道関係者協議会」で地域の方から、名所や旧跡がたくさんあるのでそれを情報発信する「沿道のマップづくり」というアイディアが出たこと。
- ・ でも、「マップをつくること」だけが目的ではなく、作業を通じて御池通やその周辺も含めた地域の将来を考えたまちづくりのきっかけにしていきたい。地域の方々のつながりも深まれば。
- ・ 地域の魅力をご存知なのは地域の方々なので、皆さんの力を借りないとできない!そして、御池通に関心や愛着を持った人も増えてほしい!



▼そして参加者で意見交換をしました。(抜粋)

- ・ ワークショップの目的は少しわかった。
- ・ 沿道の企業の方やここに来られていない地域の方の意見も聞ける場にしたい。
- ・ 「御池らしいにぎわい」とは?と考える場にしたい。
- ・ 御池通の課題を話し合う場にしたい。
- ・ 「ここに住んでいてよかった」と住んでいる人や働いている人が自慢できるマップをつくりたい。
- ・ 世界に誇れる、50年、100年たってもすばらしいと思える御池通にしたい。
- ・ 元々は鴨川～堀川までの「シンボルロード」を対象にしていたのに、なぜ突然「堀川～千本」が対象になったのか。道幅が違ふと話し合う課題も違ふのではないか。
- ・ 地域の方が熱心に参加されて話し合い、まちあるきもして「結構良い通りだ」ということになって決まった。特色が違ふところは、区域別のマップをつくる中で表現すれば良いと思う。
- ・ 堀川を境に「東は西を知らず、西は東を知らず」と古くから言われている。今回一緒に作業することで、今後のつながりができるチャンスになるのでは。

(→裏に続きます)

《各グループで話し合ったこと》

1 班: 鴨川～烏丸

- ・ 本にのっている歴史ではなく、町衆からみた歴史を紹介したい。今生きている人の記憶から歴史をたどろう。
- ・ 今住んでいる人だけでなく、かつてここにいた人にも聞いてみよう。
- ・ 良い水にちなんだところ（お酒をつくっていたところなど）も調べてみたい。
- ・ 南北の範囲は元学区を単位としつつ、だいたい御池通の周辺を範囲にする。
- ・ 今回、沿道の企業からも参加があった。



これからの作業の進め方

区域ごとに作業を進めたいと思います。
夏ごろの完成を目指してがんばりましょう！



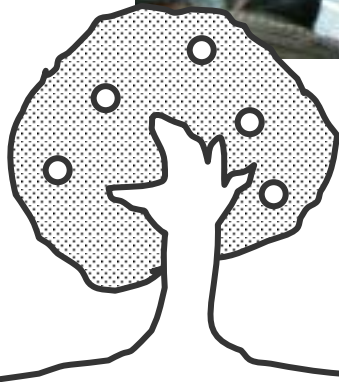
2 班: 烏丸～堀川

- ・ 町名の由来から、それに基づく石碑や建物、人物などを紹介する。
- ・ 情報を集める基準は、200年残っていること。今形が残っていなくても存在を伝える。
- ・ 現在生きている水（実際に使われている地下水）を調べる。
- ・ 南北の範囲は、押小路～姉小路として、他に紹介したいものがあれば、多少南北に広げていく。



3 班: 堀川～千本

- ・ 今生きている人が覚えている歴史を紹介したい。
- ・ 町名の由来、地域のお店のかつての様子（バイク屋さんはかつて自転車、馬車を売っていた？等）も想像してみる。
- ・ 祭りにちなんだことを紹介する。
- ・ 南北の範囲は、押小路～三条とする。



↑ 昭和22年に御池通界わいを撮った航空写真を見ながら、話しているところです。